古アラム語によるセフィレ碑文の検討（1）

酒　井　龍　一

は　じ　め　に

古アラム語の有名な碑文としてシリア・セフィレ碑文（Ⅰ～Ⅲの3個体）がある。それらは、アレッポの南東、約25キロメートルのセフィレ村近辺で出土したもので、暦年はみないが、字体や内容から紀元前8世紀頃のものと推定されている。今日、Ⅰ・Ⅱはダマスカス国立博物館に、Ⅲはベイルート博物館に保管されている。

本稿では、碑文ⅠA面（A. Dupont-Sommer 1958：第1図　上部・下部）をテキストとし、先学の研究（A. Dupont-Sommer 1958；伴康哉 1967；J. C. L. Gibson 1975；守屋彰夫 1982；A. Lemaire et J.-M. Durand 1984；J. Hoftizer and K. Jongeling [eds.] 1995）に依拠しながら古アラム語の学習に務める。なお、アラム語と関係の深いヘブライ語に関してはF. Brown, S. R. Driver and C. A. Briggs [eds.] 1951を、同じくシリア語はJ. P. Smith [ed.] 1979を併せて参照する。

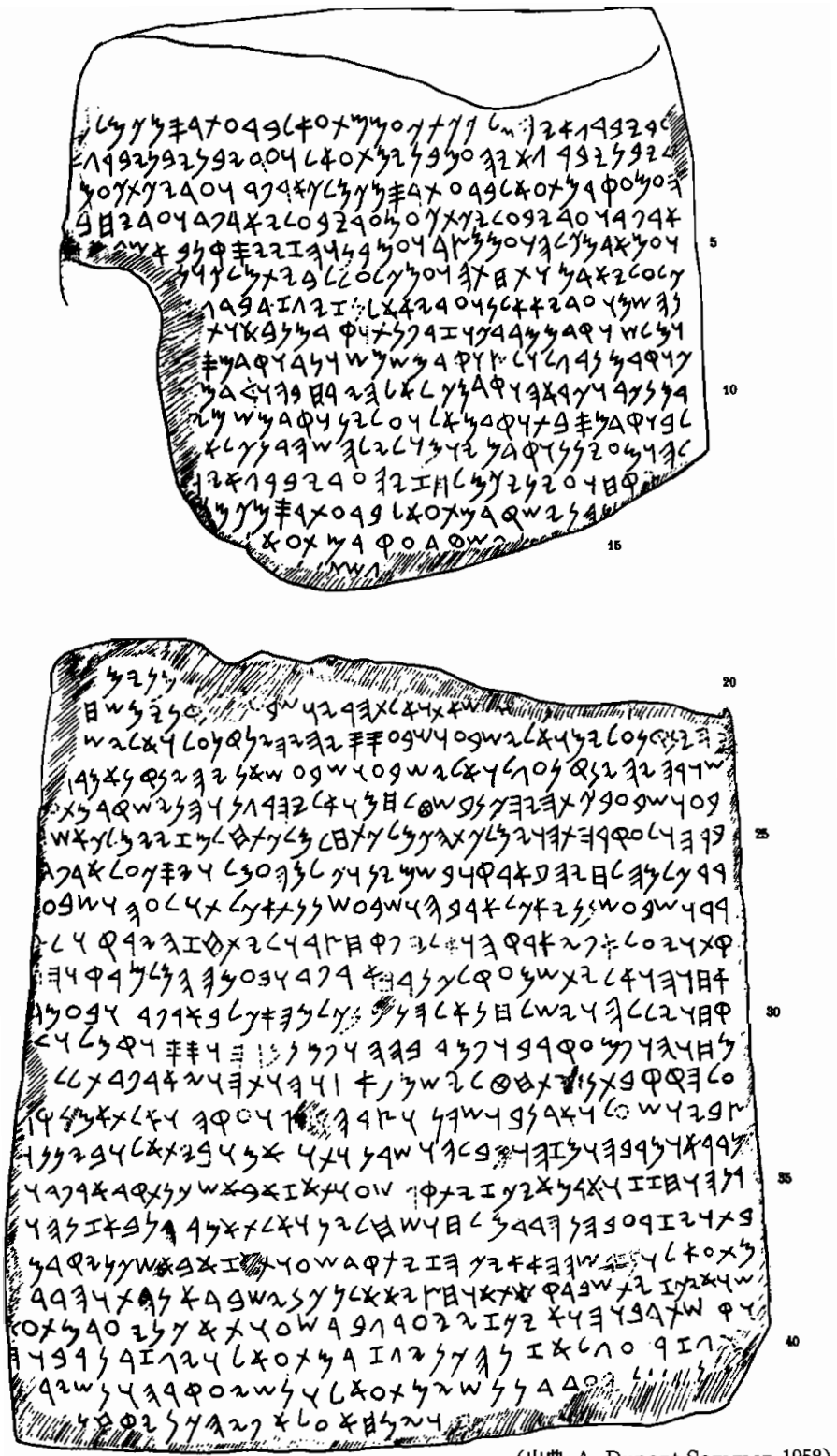
作業は先ず、筆者がワープロに外字登録した文字によって、碑文各行を打ち出す。読みの進行は上部右端から左方向。セフィレ碑文の文字は当時のフェニキア文字に近似する。単語を区切る記号や空間はなく、後のパルミラ文字や死海文書のような特別な語末形の文字はみられない。各行を概観すると、「and」を意味する接頭辞の「－𐤅」や、所有代名詞の接尾辞「𐤉－」などが頻出するので、単語の区切りの検出に目安となる。

次に、アラム語の各単語に対応する英単語（Gibson 1975他を援用）を記すと共に、アラム語の意味や品詞などを確認していく。アラム語の各単語は実際には多様な意味や文法的意義を持っているが、ここでは便宜的に代表と思うものを任意に例示した。本稿中のヘブライ語やシリア語も、便宜上、この古アラム文字で表記する。なお、碑石に向かって左端と中央部が欠損して不明。欠損部分の［　］内に先学による復元案をいくつか記した。

セフィレ碑文ⅠA面（上部）の検討

𐤀𐤕𐤓𐤎𐤌𐤊 𐤁𐤓 𐤌𐤏𐤉𐤋 𐤏𐤌 𐤊𐤕𐤊 𐤌𐤋𐤊 𐤂𐤏𐤉𐤄 𐤁𐤓 𐤒𐤉𐤕 1

Attarsamak Bar Mati'el with KTK king of ga'yah Bar treaty of



(出典 A. Dupont-Sommer 1958)

[−𐤉𐤀 𐤀𐤓𐤐𐤃] 𐤌𐤋𐤊

(treaty of) and Arpad king of

冒頭の「𐤁𐤀𐤉」は「盟約・条約」を意味する名詞。合成・複数形。絶対形は「𐤁𐤀𐤉」、強意形は「𐤊𐤁𐤀𐤉」。伴（1967）は「盟約」、守屋（1982）は「条約」と和訳している。英語では「treaty・treaty-stipulations」（J. C. L. Gibson 1982；J. Hoftizer and K. Jongeling 1995）、仏語では「serments」（A. Lemaire et J.-M. Durand 1984）や「pactes」（A. Dupont-Sommer 1958）と訳される。

このように、先ずセフィレ碑文の性格が把握できる。続く文言から、これが、ＫＴＫ王のバル・ガアヤがアルパト王のマティアル・バル・アッタルセマクと結んだ盟約・条約文であることがわかる。ただし実際の内容は、仮に裏切ろうとする相手への異様なまでの威嚇・呪詛文といった感が強い。

「𐤁𐤏𐤊𐤉 𐤁𐤍」は人名で「バル・ガアヤ」。「𐤁𐤍」は「息子」を意味する名詞の合成形だが、ここでは「𐤁𐤏𐤊𐤉・𐤁𐤍」で一人の人名。「𐤌𐤋𐤊」は「王」を指す名詞の合成形。後続する「𐤌𐤋𐤌≒ＫＴＫ」が国名。ただし、その読みは未確定。所在地も不明。諸説は、A. Lemaire et J.-M. Durand 1984に紹介されている。

「𐤊𐤉」は前置詞で英語の「with」に相当。つぎに盟約の相手が記される。「𐤋𐤊𐤉𐤌𐤊」は人名「マティエル」。「𐤁𐤍」は前出。「𐤌𐤊𐤔𐤁𐤉𐤀」は人名「アッタルセマク」。ここで、「𐤌𐤊𐤔𐤁𐤉𐤀 𐤁𐤍 𐤋𐤊𐤉𐤌𐤊」で一人の人名「マティエル・バル・アッタルセマク」（伴 1967）とみるか、「アッタルセマク息子マティエル」（A. Dupont-Sommer 1958；J. C. L. Gibson 1982）とみるか二案がある。「𐤌𐤋𐤊」は前出。後に国名が来るが、欠損し不明。以下の文言から、国名「𐤀𐤓𐤐𐤃＝アルパド」が補われる。アルパドは、アレッポの北25キロメートル、テル・エルファドを中心とする国。

1行目の末尾に「−𐤉𐤀」の存在が推定される件は、2行目の解説で触れる。

𐤁𐤊𐤍 𐤁𐤀𐤉𐤀 𐤋𐤊𐤉𐤌𐤊 𐤁𐤊𐤍 𐤊𐤉 𐤁𐤏𐤊𐤉 𐤁𐤍 𐤁𐤊𐤍 𐤁 [𐤀] 2

sons of treaty of and Mati'el sons of with ga'yah Bar sons of treaty of

[𐤀𐤓𐤉𐤀 𐤁𐤏𐤊] 𐤉 𐤁𐤍 𐤁𐤊𐤍

descendants of and ga'yah Bar sons of

2行目は1行目と概ね繰り返しで、両国王の息子達や子孫が結んだ盟約・条約でもあることを記している。右端の1字目は一部が残るだけだが、字形から「𐤀（D）か𐤓（R）」の可

能性がある。古アラム文字は「D」と「R」の形が近似。1行目との関係から、先頭に「𐡆𐡀（o）」が推定できる。以降に「𐡀𐡐o𐡉」が頻出することや、文脈からも「𐡀𐡐o」に接続・接頭辞の「また≒and」を意味する「－𐡉」が付くだろう。従って「𐡆𐡀o＋𐡉＝𐡆𐡀o𐡉」となる。ただし、2行目右端のスペースの狭さを考慮して、1行目の末尾に「－o𐡉」が、2行目の頭に「𐡆𐡀－」が刻まれていたと復元することが通例（A.Dupont-Sommer 1959. J. C. L. Gibson 1982. A. Lemaire and J-M.Durand 1984)。

続く「𐡆𐡓𐡄≒息子達」は前出の「𐡀𐡄≒息子」の複数・合成形。以下、前出の単語が続く。「𐡆𐡓𐡄　𐡆𐡓𐡄」は「息子達の息子達＝孫達」の意味。「[𐡀𐡆𐡊]𐡌　𐡀𐡄」は、前出の人名「バル・ガアヤ」。後の三字は欠損しているが、文意から明らか。

欠損して不明の末尾は、3行目の文意と先頭の文字「𐡀－」からみて、「(𐡀)𐡀𐡐o𐡉」と復元される。なお「𐡀𐡀𐡐o𐡉」は、三人称・単数・所有・接尾辞である「𐡀（彼の)」＋「𐡀𐡐o（子孫)」＋「𐡉（また)」という構成である。

𐡆𐡀o𐡉　𐡀𐡓𐡀𐡊　𐡓𐡋𐡓　𐡓𐡓𐡊𐡀𐡌o　𐡀𐡄　𐡋𐡊o𐡌𐡓　𐡀𐡐o　𐡓o　𐡀　3

treaty of and Arpad　king of　Attarsamak　son of　Mati'el descendants of　with his

[𐡆𐡀o]　𐡓o　𐡓𐡌𐡓

treaty of　with　KTK

3行目は、アルパド国王の子孫とも結んだ盟約であることと、アルパドの盟約と結んだカトカの盟約であることを記している。

「𐡀𐡐o」は「根・根幹・子孫」などを意味する名詞の合成形。ヘブライ語などにも共通する。ここでは、通例、文意から「子孫」と理解される。その他の単語はいずれも前出。末尾の「𐡆𐡀o」は、前後の文脈から補われたもの。

𐡀𐡓𐡀𐡊　𐡆𐡋o𐡄　𐡆𐡀o　𐡓o　𐡓𐡌𐡓　𐡆𐡋o𐡄　𐡆𐡀o𐡉　𐡀𐡓𐡀𐡊　4

Arpad　citizen of　treaty　with　KTK　citizen of　treaty of and　Arpad

𐡐𐡀𐡀𐡊　𐡀]𐡄𐡁　𐡆𐡀o𐡉

(Urartu) Ararat　association of　treaty of and

4行目は、カトカの市民とアルパトの市民が結んだ盟約でもあることと、また「アララト連合？」云々が記されている。

「𐤆𐤋𐤍𐤔」には「領主・所有者・夫・市民・住民」などを示す名詞の複数・合成形。セフィレ碑文では「市民」と訳される。単数形は「𐤋𐤍𐤔」。その後は前出の単語が続くが、最後の2字は「・𐤔𐤁」で、その後は欠損。「𐤔𐤁」のスペルをもつ単語は、例えば、『北西セム語碑文辞書』(J. Hoftizer and K. Jongeling 1995) には32語が提示されている。前後の文脈から判断して「𐤔𐤁𐤁」を想定して、「association, union, collage≒同盟・連合」などと訳する見解が通例である。この単語の後も欠失して不明(伴 1967 : A. Lemaire and J.-M. Durand 1984) だが、国名の「𐤀𐤓𐤀𐤓𐤈=アララト(ウラルトゥ)」(F. Brown, S. R. Driver and C. A. Briggs 1951) を想定し、「𐤀𐤓𐤀𐤓𐤈 𐤔𐤁𐤁=ウラルトゥ同盟」と読みとる見解がある(A. Dupont-Sommer 1958 ; J. C. L. Gibson 1975)。ただし「𐤀𐤓𐤀𐤓𐤈」の最後の文字の𐤀は、5行目の頭に記されている。なお、アララト=ウラルトゥ(前850頃〜590年)は、アルメニアの一地方、即ちトルコ領のヴァン湖付近に存在し、首都はトゥシュパであったという。この国名は『旧約聖書』の「創世記」に出てくるノアの方舟伝説で有名な「アララト山」という名称に遺存している。

𐤓𐤦𐤥𐤆 𐤆𐤉 𐤌𐤀𐤓𐤌𐤔 𐤌𐤍𐤀 𐤀𐤓𐤌 𐤌𐤍𐤀 𐤌𐤋𐤃 𐤌𐤀𐤓𐤌 𐤌𐤍 𐤀- 5

go up who his sons with and Musr with and it's all Aram with

[𐤆𐤃𐤋𐤌 𐤌𐤍] 𐤀 [𐤌] 𐤀𐤅𐤓𐤔

kings of with and his position

5行目は、アラムなど近隣諸国との盟約でもあることを記している。

最初の文字「𐤀-」は4行目の最後の単語にかかる。「𐤌𐤀𐤓=アラム」は、ここでは「アラム連盟」といったニュアンスをもつ。アラム世界に詳しい高階(1985 : p.291)によれば、当時「アラム諸小王国は半独立の状態ながらも同盟を結んで結束を計り」という状態にあった。「𐤌𐤋𐤃」は、三人称・所有格・接尾辞の「𐤌」+名詞の「𐤋𐤃=全体」という構成。従って、「𐤌𐤋𐤃 𐤌𐤀𐤓」は「アラム連盟全体」と理解できる。

続く「𐤀𐤓𐤌=ムスル」は、国名だろうが不明である。字訳にも「Musr・Musru・Misr」などがある。候補地に関する諸説はA. Lemaire and J.-M. Durand (1984 : pp.85-88) に詳しい。

「𐤌𐤀𐤍𐤔」は「𐤌=彼の+𐤀𐤍𐤔=息子達」の構成。「𐤆𐤉」は関係代名詞で、英語の「who」に該当。後のアラム語やパルミラ語などでは、「YZ」は「YD」に変化する。「𐤓𐤦𐤥𐤆」は「登る」などを意味する動詞「𐤦𐤋𐤥(原形)」の複数・未完了形。後続の「[𐤌]𐤀𐤅𐤓𐤔」は「𐤌≒his+𐤀𐤅𐤓=地位+𐤔=in」の構成。「𐤀𐤅𐤓」は「場所」などを意味

する名詞。「－𐡁」は「in」に該当する前置詞・接頭辞。「𐡄－」の文字は文脈からの復元である。「𐡄𐡀𐡅𐡉𐡁　𐡓𐡐𐡇𐡆　𐡆𐡉　𐡇𐡉𐡓𐡁　𐡄𐡏𐡉」は、「また彼の地位に登るところの息子達との（盟約）」の意味となる。

文脈から復元される単語の「𐡆𐡋𐡌𐡄」は「𐡋𐡌𐡄≒王」の複数・合成形で、国名などは6行目に記されている。

𐡋𐡌𐡄　𐡉𐡆𐡁　𐡌𐡌𐡏　𐡌𐡋　𐡄𐡏𐡉　𐡄𐡉𐡇𐡉𐡉　𐡄𐡀𐡅　𐡆𐡌𐡏　𐡌𐡋　6

king　house of　to enter　all　with and　its lower and　Aram　upper　all

［𐡉　𐡅𐡁𐡔𐡓　𐡆𐡉　𐡌𐡋　𐡄𐡏］𐡉

(this)　stele　who　all　with and

6行目は、上・下アラムのすべて（の諸国）との盟約でもあることと、王宮に入るすべての者との盟約であることを記している。この後ろは欠損するが、復元によれば、7行目にかけて、この石碑を建てた全員と結ばれた盟約であることを記している。

「𐡌𐡋≒全体」は前出。「𐡄𐡀𐡅　𐡆𐡌𐡏」は「上アラム」、対する「𐡄𐡀𐡅　𐡉𐡇𐡉」は「下アラム」のこと。「𐡄𐡉𐡇𐡉𐡉」は「𐡄≒it's＋𐡉𐡇𐡉＝lower＋𐡉＝and」の構成となる。両者の厳密な区域は不明だが、上アラムはアルパドの北側の、対する下アラムは南側の地域を指すとみられる（J. C. L. Gibson 1975 : p.36)。

「𐡌𐡌𐡏」は動詞の分詞形容詞形で「入る」の意味。別に、後ろの「𐡌」の前置詞と判断して、「－𐡌＝to－」＋「𐡌𐡏＝enter」とみる見解（A. Dupont-Sommer 1958 : p.29）もある。「𐡉𐡆𐡁」は「家」などを意味する名詞の合成形。「𐡋𐡌𐡄＝王＋𐡉𐡆𐡁＝家」ならば「王宮」とも言えよう。

それ以下は欠損して不明。そこに想定される文言に次のような諸案がある。この文脈は7行目の最初の「𐡓𐡌𐡅」まで続く。

［𐡉　𐡅𐡄𐡓𐡇　𐡄𐡏　𐡅𐡁𐡔𐡓］𐡓𐡉（A. Dupont-Sommer 1958 : p.17）

［𐡉　𐡅𐡄𐡓𐡇𐡁　・・・・・］𐡓𐡉（伴 1967 : p.4）

［𐡉　𐡅𐡁𐡔𐡓　𐡆𐡉　𐡌𐡋　𐡄］𐡏𐡉（J. C. L. Gibson 1975 : p.28）

「𐡅𐡁𐡔𐡓」は「石碑」など、「𐡅𐡄𐡓𐡇」は「碑文」などを意味する名詞の強意形。「𐡄𐡏≒with」は前出。「𐡅𐡄𐡓𐡇𐡁」は「𐡅𐡄𐡓𐡇≒石碑＋𐡁」の構成。「－𐡁」は「in・by」などを意味する前置詞の接頭辞。「𐡌𐡋≒all」と「𐡆𐡉≒who・which」は前出。6行目か

ら7行目にかけての「𐤉𐤄𐤀≒this」は、単数・男性形の指示代名詞。「𐤔𐤅」は動詞「𐤔𐤄𐤅≒定める・置く」の三人称・単数・男性の完了形である。

1行目から記されてきた、いかなる盟約かの記述は6行目で一端、終了する。

𐤁𐤏 𐤁𐤀𐤋 𐤄𐤀 𐤕𐤋𐤌 𐤌𐤄𐤓𐤉𐤕 𐤕𐤋𐤌 𐤌𐤄𐤓𐤉𐤕 𐤔𐤅 𐤉𐤄 7

Bar has concluded which these treaties and these treaties and set up this

[·· 𐤔𐤁𐤓 𐤔𐤅 𐤉𐤄] 𐤌𐤋

before set up ga'yah

7行目からは、この碑文内容は、バル・ガアヤが主体的に決定したものであることを明言し、その後に証人となる様々な神々が列挙されていく。読み進んで行く時、キーワードとなるのは、頻繁に登場する「𐤔𐤁𐤓𐤉≒また～の前で」という単語である。その間に様々な神が記されている。

この行の多くの単語は前出。「𐤄𐤀≒who・which」は関係代名詞。「𐤁𐤀𐤋」は「切り取る・結論づける」などを意味する動詞で、三人称・単数・男性の完了形である。その後は欠損。以降の文言から「～の前で定められた」などの単語が復元できる。「𐤔𐤁𐤓≒before]は前置詞。その後には何らかの神名が記されていた。

𐤥𐤔𐤅] 𐤥𐤉 𐤌𐤁𐤉 𐤔𐤁𐤓𐤉 𐤥𐤉𐤆𐤁𐤀𐤋𐤉 𐤦𐤁𐤁𐤔 𐤔𐤁𐤓𐤉 𐤅𐤋𐤔𐤉 8

Tashmet and Nabu before and Zarpanit and Marduk before and Mullish and

[𐤅𐤉𐤉 𐤌𐤁𐤌 𐤔𐤁𐤓𐤉

Nus(k) and Irra before and

8行目以降は、カトカ王のバル・ガアヤがこの盟約を締結した時、眼前の証人たる神々が列挙される。ここでは、ムリシュ神と？神、マルドク神とザルパニト神、ナバー（ナブー）神が確認できる。以降の欠損部分には、タシュメト神、アラー神とユシュク神を想定する見解が通例である。

最初の「𐤅𐤋𐤔𐤉」は「𐤅𐤋𐤔＝ムリシュ＋𐤉＝and」。ムリシュの詳細は未詳。接続詞の存在から、7行目の最後に何らかの神名が記されていた。それはムリシュと一対となるが、実際には不明。例えば、A. Lemaire et J.-M. Durand（1984 : p.113）は「𐤁（𐤉）𐤅𐤌＝Ashur」と想定している。

「𒀭𒌋𒀝𒈬＝マルドク」は農耕神に由来するバビロンの主神。「𒁹𒁺𒁺𒀜𒂗＝ザルパニト」は生命の永続神である。「𒁕𒄩𒁺＝ナバー（ナブー）」はマルドクの息子で神々の書記と称された。なお、「𒁕𒄩𒁺＝ナバー」の綴りより「𒀸𒄩𒁺＝ナブー」の方が妥当なようにも思われる。

その後は欠損して実際は不明である。「𒁕𒀊𒁕」（J. C. L. Gibson 1975 : p.28）の部分を、「𒀊𒁕＝Irra」（A. Dupont-Sommer 1958 : p.17）あるいは「？（𒁕）𒀊𒀀＝Girra」（A. Lemaire et J.-M. Durand 1984 : p.113）とみる見解もある。なお、「𒀭𒌋𒁺𒀸」の最後の文字＝「𒀭」は、9行目の最初に記されている

𒁺] 𒋗 𒌋𒀜𒀸 𒀊𒁺𒀸 𒌋𒌋𒌋 𒌋𒀜𒀸 𒀸𒁍𒀸 𒁍𒀭𒀊𒁺 𒌋𒀜𒀸 𒀭— 9

Sin before and Nur and Shamash before and Laṣ and Nergal before and k

[𒀜𒀸・・・𒁍𒀭𒁺𒀸

(before) and Nikkal and

9行目も続いて証人の神々が列挙される。ネルガル神とラス神、シャマシュ神とヌル神が明記され、欠損部分はシン神とニカル神が想定される。

「𒁍𒀭𒀊𒁺＝ネルガル」はバビロニアの都市クタの戦争神。「𒀸𒁍＝ラス」はその配偶で太陽神である。「𒌋𒌋𒌋＝シャムシュ」はセムの太陽神。「𒀊𒁺＝ヌル」は未詳だが、アッカド語で「光」を意味し、シャマシュなどの呼び名として登場するという（John C. L. Gibson 1975 ; p.36)。

その後には神名が記されるはずが、先頭の文字「－𒋗＝S」だけが読みとれる。これを根拠として、そこに「𒁺𒋗＝シン」と「𒁍𒀭𒁺＝ニカル」を想定する意見がある。シンは、バビロニアの月神で「神々の神」と称される。同じく「ニカル」も豊穣をもたらすカナンの月神である。

𒌋𒀊𒁕𒀸 𒁹𒄩𒄭𒀊 𒄭𒁹𒁍𒁕 𒁍𒀭 𒌋𒀜𒀸 𒁹𒁕𒀊𒀭𒀸 𒀊𒀭𒁺 𒌋𒀊— 10

estate and open land gods of all before and KD'H and NKR before

[𒄭 𒄭𒁺 𒀊𒀊𒁹 𒌋𒀜𒀸 𒁹]

(Ha) of Hadad before and

10行目も証人としての神々が記される。読み方不明のKD'H神とNKR神、そして耕地や

領地の神々である。加えて、「アレッポのハダッド」神を想定する意見がある。

「𐎗𐎚𐎲𐎘」は「神」の複数・合成形で「〜の神々」。いかなる神々かは後に示される。「𐎚𐎡𐎺𐎚」は「広い土地」などを意味する名詞で絶対形。動詞は「𐎡𐎺𐎚≒広げる」である。「𐎚𐎚𐎚𐎘」はアラム語では未確認だが、古代ヘブライ語では「土地・大地・領地」などを意味する女性名詞。末尾の文字「𐎚－」は欠損している。伴（1967）は、前者を「荒野」、後者を「耕地」と和訳している。

それ以下は欠損し不明。上記の復元案がある。それは、11行目頭の2文字「𐎡𐎲－」を「𐎡𐎲𐎺＝ハレブ＝アレッポ」と理解し、アッシリア語碑文でアレッポと組み合わさって記されるアラム諸国の最高神で暴風神の「𐎚𐎚𐎚＝ハダッド」を想定したもの。「𐎗𐎥」は関係小辞で、ここでは英語の「of」に相当する。

𐎗] 𐎗𐎚w 𐎚𐎚𐎢𐎌 𐎗𐎗𐎲𐎢𐎌 𐎲𐎘 𐎚𐎚𐎢𐎌 𐎢𐎡𐎖 𐎚𐎚𐎢𐎌 𐎡𐎲 11

Heavens before and Elyon and El before and Sebat before and (Ha) leb

[𐎌𐎚 𐎚𐎚𐎢𐎌 𐎢𐎚𐎘𐎌

(Abyss) before and Earth and

11行目の前半までは、引き続き証人としての「セバト」神、「アル神」と「エリウン」神が登場するが、後半から以下の行にかけて、証人として様々な自然界が登場し始める。先ず、「天と地」が登場する。

「𐎢𐎡𐎖」は、「7・週」などを意味する名詞だが、ここでは戦争神の「セバト」のこと。「𐎘𐎲」はもともと「神」を意味する名詞だが、ここでは神々の父神の「エル」を指す。アラム語の「𐎗𐎗𐎲𐎢𐎌𐎍」は確認できず不明。古代ヘブライ語の「𐎗𐎌𐎗𐎲𐎢𐎌𐎍」と理解すると、それは「最高」を意味する名詞。「エリウン」という最高神を指す。

4字目は欠損するが、「－𐎗𐎚w」は「𐎗𐎗𐎚w」と推定できる。「天」神を意味する名詞の複数形。続いて、それと対となる「𐎢𐎚𐎘」神も想定される。最後の「－𐎌𐎚」は、次行の頭2文字を踏まえて「𐎚𐎲𐎌𐎚≒l'Abime≒深淵」と復元されたもの（A. Dupont-Sommer 1958 : p.35)。後続する単語と併せて「𐎗𐎗𐎗𐎍𐎚𐎌𐎚 𐎚𐎲𐎌𐎚」で「深淵と源泉」といった文意となる。

𐎲𐎚 𐎗𐎚𐎚w 𐎚𐎲𐎗𐎲𐎌 𐎚𐎌𐎗 𐎚𐎚𐎢𐎌 𐎗𐎗𐎗𐎍𐎚𐎌 𐎚𐎲－ 12

all Witness Night and Day before and Springs and (Abyss)

[𐎠𐎲 𐎢𐎼𐎶𐎲𐎺 𐎷𐎹𐎷 𐎢𐎼𐎶] 𐎲

!(Arpad) gods of and KTK gods of

12行目も証人としての自然界、「深淵と源泉」・「日と夜」が登場する。そこで一旦、文意が途切れる感がある。「すべての証人」云々の以降は欠損している。「すべての証人たるＫＴＫの神々とアルパドの神々よ！」といった呼びかけ文が想定される。

「𐎼𐎶𐎽𐎹」は「深淵・割れ目」などを意味する名詞の単数・絶対形。「𐎸𐎸𐎢𐎿𐎹」は「𐎸𐎢𐎿𐎹≒源泉・泉」などを意味する名詞の複数・絶対形。また、「𐎹𐎺𐎢」は「日」、「𐎼𐎶𐎢𐎶」は「夜」を意味する名詞の単数・絶対形。そして、「𐎸𐎠𐎼𐎴」は「証人」を意味する名詞「𐎠𐎼𐎴」の複数・絶対形である。「𐎷𐎷≒すべて」は前出。次の文字の「－𐎲」以降は欠損している。

欠損部分は、「アルパドの神々とＫＴＫの神々」という文言を復元するのが通例。ここの文言だけでは認識できないが、13行目の文意から判断して、それら神々への呼びかけと理解できる。「𐎢𐎼𐎶𐎲」は「神々」の複数・合成形。最後の２文字「－𐎠𐎲」は、13行目の文字「𐎠－」に接続して「𐎠（𐎸𐎠𐎲）＝アルパド」と復元される。

𐎹𐎿 𐎼] 𐎢𐎲𐎺 𐎠𐎪 𐎢𐎠𐎿 𐎼𐎢𐎤𐎼𐎶 𐎹𐎷𐎸𐎢𐎿 𐎺𐎼𐎿𐎸 𐎠 [𐎸] － 13

with Gara'yah Bar treaty of behold to your eyes Open (Arpad)

[𐎷𐎶𐎹 𐎶𐎲𐎿𐎠𐎹

king of Mati'el

13行目では、神々に対し、この盟約を見るため眼を開き給えと懇願がなされる。

「𐎺𐎼𐎿𐎸」は動詞「𐎼𐎿𐎸≒開ける」の複数・未完了形。動詞の未完了形で命令・禁止・意志・懇願を示す。「𐎹𐎷𐎢𐎸𐎢𐎿≒あなた方の眼」は、「𐎸𐎢𐎿≒眼」に２人称・複数・男性形の所有代名詞「𐎹𐎷𐎢－」が付いたもの。「𐎼𐎢𐎤𐎼𐎶」は「𐎼＋𐎢𐎤𐎼（動詞）＋𐎶」の構成。「－𐎶」は不定詞を示す接頭・前置詞で、英語の「to＋（動詞)」に相当する。「𐎼𐎢𐎤𐎼」は「𐎢𐎤𐎼≒見る」を意味する動詞だが、語尾「𐎼－」は不明。以下は前出。

𐎷] 𐎶𐎹 𐎷𐎹𐎥𐎠𐎠𐎿 𐎠𐎪 𐎶𐎲𐎿𐎠𐎹 𐎠𐎿𐎼𐎢 𐎸𐎼𐎺 [𐎠𐎸𐎠𐎲] 14

king of Attarsamak Bar Mati'el be false if and (Arpad)

[𐤆𐤏𐤄 𐤁𐤓 𐤋 𐤀𐤓𐤐𐤃

Ga'yah Bar to Arpad

14行目では、「もしアルパド王のマティエル・バル・アッタルセマクが、バル・ガアヤを裏切ったならば」云々という脅迫的な文言が記される。

「𐤉𐤌𐤊」は「𐤉𐤌＝if＋𐤊＝and」の構成。「𐤉𐤌」は「if」に相当する接続詞。後に動詞の未完了形がくる。「𐤀𐤔𐤅𐤆」は「𐤀𐤔𐤅≒欺く」の未完了形。「𐤁𐤓𐤋」は「𐤁𐤓＋𐤋」の構成で、「𐤋」は「to」に相当する前置詞の接頭辞。もしバル・ガアヤに「対して」という意味。

𐤀𐤔𐤋] 𐤋𐤏𐤋𐤌𐤉 𐤀𐤔𐤋 𐤀𐤔𐤅𐤆 𐤉 [𐤌𐤊 𐤊𐤌𐤊 𐤊𐤋𐤉 𐤌] 15

descendants of to Mati'el descendants of be false if and KTK king of (Ga'ya)h

𐤊𐤋𐤉 𐤌𐤆𐤏𐤄 𐤁𐤓

king of Ga'yah Bar

15行目では、更に、その子孫に対しても重ねて同様の文言が記される。いずれの単語も前出。実際に確認できるのは中央の文言だけで、両端は復元されたもの。

・・・𐤊 𐤅𐤄 [𐤆𐤉𐤁 𐤉𐤀𐤔𐤅𐤆 𐤉𐤌𐤊 𐤊𐤌𐤊 16

Gush? sons of be false if and KTK

16行目は中央付近の３字を確認するにとどまる。

「𐤅𐤄」は意味不明。地名とも見られるが未確認。後に「－𐤊」の文字があるが、単語は推測できず。前半は復元文。16行目をもって碑石の下部は欠損している。

別に、それと直接には接合しないが、同じ碑石の下部が別に存在する。その内容と碑石の形状から、通例、20行目から遺存しているとみなされる。

セフィレ碑文ＩＡ面（下部）の検討

（17～19行は欠損）

・・・・・𐤌𐤆 𐤉𐤌・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20

? ?

20行目と推測されるこの行は、4字「𐡌𐡆＝－ｍｙ　𐡍𐡌＝ｎｍ－」が遺存するが、単語や意味は復元されず。

𐡍] 𐡄𐡅𐡌𐡆　𐡍𐡈𐡍 [𐡆𐡉𐡌　𐡀] 𐡃𐡅𐡊　𐡆𐡊𐡉𐡋　𐡊𐡓𐡊　𐡋𐡓𐡅・・・　21

anoint　wet-nurses　7 and conceive (her)　let not and　ewe

[𐡊　𐡍𐡉𐡆𐡃𐡅

and　their breasts

21行目は、上記の述べられた盟約の裏切りを前提として文言が続く。「子牛」、「妊娠しない」、あるいは「７人の乳母が乳房に油を注ぐ」云々が記される。各所復元。

「𐡋𐡓𐡅＝雌羊」は「羊」を意味する名詞「𐡉𐡓𐡅」の女性形。23行目の「𐡍𐡓𐡅」は複数形。𐡊𐡓𐡊は「𐡊𐡓＝not＋𐡊＝and」の構成。「𐡊𐡓」は「否定」を意味する副詞。次に動詞が来る。「𐡆𐡊𐡉𐡋」は動詞「𐡉𐡊𐡉≒妊娠する」の未然形・命令形で、３人称・単数・女性形（A. Dupont:Sommer 1958 : p.142 ; J. Hoftizer and K. Jongeling 1995)。ただし、他のアラム語テキストに用例はない。「𐡀𐡃𐡅𐡊」は「𐡀𐡃𐡅＋𐡊＝and」の構成。「𐡀𐡃𐡅≒７」は数詞の合成形。以降の行で、「７」頭とか「７」年といったが数字が頻出するが、『旧約聖書』でも同様で、「７」は完全数と理解できる。「𐡍𐡀𐡍𐡆𐡉𐡌」は、動詞「𐡀𐡍𐡆≒乳を飲ます」の部分詞で複数・女性・絶対形。通例、名詞的に「乳母」と訳される。「𐡍𐡄𐡅𐡌𐡆」は、動詞「𐡄𐡅𐡌≒油を注ぐ」の未完了形で３人称・複数・女性形。「𐡍𐡉𐡆𐡃𐡅」は「𐡍𐡉𐡆＋𐡃𐡅」の構成。「𐡃𐡅」に関して、アラム語テキストでは未確認だが、ヘブライ語やシリア語では「乳房」を意味する名詞。「𐡍𐡉－」は所有代名詞の接尾辞で３人称・複数。

𐡊𐡀　𐡍𐡀𐡍𐡆𐡉𐡆　𐡉𐡆𐡉𐡉　𐡀𐡃𐡅𐡆　𐡊𐡓𐡊　𐡌𐡆𐡊𐡀　𐡍𐡀𐡍𐡆 [𐡉𐡆]　22

foal　suckle　mare　be sated　let not and　child(m.)　suckle

[𐡀𐡃𐡅𐡊]　𐡀 [𐡃] 𐡅𐡆　𐡊𐡓𐡊

7 and　be sated　let not and

「𐡍𐡀𐡍𐡆𐡉𐡆」は動詞「𐡀𐡍𐡆≒～に乳を飲ます」の未完了・３人称・複数・女性形。「𐡌𐡆𐡊𐡀」は名詞「子供（男)」の絶対形。動詞の直接目的語となる。「𐡊𐡓𐡊」は前出。

「𐡏𐡕𐡅𐡆」は動詞「𐡏𐡕≒満足させられる（受動的）」の未完了・3人称・単数・男性形。注意すべきは、前後に同じ綴りで別単語の数詞「𐡏𐡕𐡅≒7」があること。「𐡓𐡆𐡇𐡇＝雌馬」は「𐡓𐡇𐡇≒馬」の女性・単数・絶対形。「𐡊𐡏」は名詞で「仔馬」のこと。「𐡊𐡏」は、別に前置詞「to」としてアラム語テキストで頻出するので注意すべし。後は前出。各所復元。

𐡉𐡎𐡅 𐡏𐡕𐡅𐡉 𐡏𐡕𐡅𐡆 𐡊𐡎𐡉 𐡊𐡌𐡏 𐡉𐡐𐡉𐡆𐡓𐡆 𐡓𐡓𐡉𐡅 23

ewes 7 and be sated let not and calf suckle cows

[𐡅𐡆 𐡊𐡎] 𐡉 𐡓𐡉𐡎 𐡉𐡐𐡉𐡆𐡓𐡆

let not and lamb suckle

「𐡓𐡓𐡉𐡅≒雌牛」は単数形だが、文脈では「7頭」である。「𐡊𐡌𐡏≒子牛」は単数・絶対形。「𐡉𐡎𐡅」は「𐡓𐡎𐡅≒雌羊」の複数・絶対形。「𐡓𐡉𐡎」は名詞「羊・子羊」の単数・絶対形。文意は子羊を指す。行末は復元。次行の頭と併せて「𐡏𐡕𐡅𐡆」となる。

𐡉𐡌𐡓𐡓𐡆 𐡊𐡎𐡉 𐡉𐡄𐡊 𐡐𐡅𐡕 𐡉𐡂𐡓𐡆 𐡓𐡌𐡂𐡕 𐡏𐡕𐡅𐡉 𐡏𐡕- 24

destroy let not and food to roam go his hens 7 and be sated

[𐡊𐡉 𐡊𐡎] 𐡏𐡌𐡉 𐡓𐡐𐡅𐡆 𐡉𐡓𐡉

Mati'el be false if and

この行の「𐡉𐡌𐡓𐡓𐡆 𐡊𐡎𐡉 𐡉𐡄𐡊 𐡐𐡅𐡕 𐡉𐡂𐡓𐡆 𐡓𐡌𐡂𐡕 𐡏𐡕𐡅」に対する解釈に諸案がある。以下に掲げる。

a）Et que sept poules aillent en quête de nourriture, et qu'elles ne tuent rien !

b）Et que ses sept filles aillent pour un morceau de pain et qu'elles ne soient pas désirées !

c）;his seven daughters shall go walking while the bread gets burnt, but let them show no concern !

d）七羽の雌鶏が食べ物を探し歩いても、彼女らは仕留めないだろう

先ず、3語目の「𐡓𐡌𐡉𐡕≒his daughters」（J. C. L. Gibson 1975 ; A. Lemaire et J.-M. Durand 1984）には、「𐡓𐡌𐡂𐡕≒poule・雌鶏」（A. Dupont-Sommer 1958 ; 伴 1967）とみ

る別案がある。2字目が「ㄅ＝N」か「ㄍ＝K」が不鮮明なのが理由である。いずれも単数形だが、文脈では複数。次の動詞で確認できる。「ㄅㄍㄱㄗ」は動詞「ㄍㄌㄱ≒行く」の未完了・3人称・複数形。「⓪ㄨㄙ」は動詞「⓪ㄚㄨ≒ぶらつく」の不定詞形。「ㄅㄖㄌ」は名詞「食料・パン」の単数・絶対形。「ㄅㄖㄌ≒食料＋⓪ㄨㄙ≒ぶらつく＋ㄅㄍㄱㄗ≒行く」で「食料（を求めて）ぶらつき歩く」といった意味になる。

次に、「ㄅㄟㄅㄱㄗ」は「ㄗ＋ㄟㄅㄱ＋ㄗ」の構成。「ㄟㄅㄱ」は動詞の「殺す・破壊する」(J. Hoftizer and K. Jongeling 1995)。語頭の「－ㄗ」は未完了形、語尾の「ㄅ－」は複数形を示す。A. Dupont-Sommer (1958) は「tuel＝殺す」と仏訳しているが、上記のように、他は別案となる。文意も含めて未確定。

「ㄅㄱㄚ」は「ㄅㄱ＝if＋ㄚ＝and」の構成。「ㄅㄱ」は接続詞で、「もし～ならば」。同じ綴りで、3人称・複数・女性形の代名詞「ㄅㄱ≒彼女ら」と間違わないように注意すべし。ㄅㄆㄨㄗは「欺く」の未完了形で前出。

ㄌㄖ　ㄅㄍㄌㄅㄍ　ㄱㄅㄍㄌㄅ　ㄗㄚㄱㄅ　ㄱㄅㄆㄅㄌㄚ　ㄱㄅㄙ　25
sand　kingdom of like　his kingdom of　let become　his descendant to and　his son

［ㄱ　ㄍㄧㄗㄚ］　ㄨㄤㄍ　ㄌㄅㄗ　ㄗㄝ　ㄅㄌㄖ　ㄅㄍㄌㄅ
pour out and　fire like fade away　that　dream　kingdom of

24行目から25行目にかけては、彼の息子や子孫を裏切ったなら、火のように消える夢の王国や砂の王国のようになれ！との呪いが記されている。

「ㄱㄅㄆㄅㄌㄚ」は「ㄱ＝his＋ㄅㄆㄅ＝子孫＋ㄌ＝to＋ㄚ＝and」という4要素で構成。「－ㄌ－」は前置詞で「to」に該当。「ㄗㄚㄱㄅ」は、英語の「be動詞」に相当する「ㄗㄚㄱ動詞≒to be・to exist」の未完了・命令形・3人称・単数・女性形。「ㄅㄍㄌㄅㄍ」は「ㄅㄍㄌㄅ＋ㄍ」の構成。接頭の「－ㄍ」は「～のように＝like」を意味する前置詞。「ㄅㄍㄌㄅ」は名詞「ㄚㄍㄌㄅ≒王国」の単数・合成形。「ㄱㄅㄍㄌㄅ」は「ㄅ＋ㄚㄍㄌㄅ」の構成。「ㄌㄖ」は名詞の「砂」、「ㄅㄌㄖ」は同じく「夢」で、単数・絶対形。「ㄗㄝ」は関係詞で「which・that・of」などに相当する。

「ㄌㄅㄗ」に関して筆者はまだ未確認。Gibson (1975) は、「yimmal」と理解し、「fade away＝消える」と英訳。Lemaire et Durand (1984) も同じ立場で仏訳。後に「ㄨㄤㄍ≒火のように」の単語があり、妥当と思われるが、引き続き確認に務めたい。「ㄨㄤㄍ」は「ㄨㄤ＋ㄍ」の構成。「－ㄍ」は前出。「ㄨㄤ」は「火」の単数・絶対形。

ただし、「ㄗㄝ」以下の区切り方・読み方には、下記のように別案もある。

[𐤩 𐤦𐤩𐤦] 𐤀𐤔𐤓 𐤦𐤋𐤩𐤦 𐤦𐤉 𐤩𐤋𐤄 𐤌𐤦𐤋𐤩

pour out Assur reign that dream kingdom of

「𐤦𐤋𐤩𐤦」は動詞「𐤦𐤋𐤩≒王になる・支配する」の未完了・3人称・単数・男性形。前者は「火のように消える」に対して、後者は「アシュールが支配する」となる。語尾が欠損するが、想定される「𐤀𐤔𐤓＝アシュール」は地名・地方名・国名と思われる。この立場で、Dupont-Sommer (1958) は仏訳、伴 (1967) は和訳している。

「𐤦𐤩𐤦」は動詞「𐤦𐤩𐤥≒流れ出る・注ぐ」などの未完了で、ここでは願望・命令文。なお、行末の復元は、26行目頭の「𐤀𐤀」を、雷・暴風神の「𐤀𐤀𐤩＝ハダッド」と理解を踏まえたもの。

𐤋𐤩𐤏 𐤩𐤩 𐤋𐤦𐤉 𐤥𐤦𐤩𐤔𐤁𐤉 𐤐𐤀𐤓𐤁 𐤩𐤦𐤄𐤋 𐤩𐤩 𐤋𐤦 𐤀𐤀- 26

trouble that is all and heaven in and earth in bad that is all (Ha)ddad

[𐤁 𐤦𐤥𐤁𐤓] 𐤀𐤃𐤀𐤓 𐤋𐤏 𐤦𐤩𐤦𐤉

stones of Arpad on pour put and

「𐤋𐤦」は名詞で「全部」。「𐤩𐤩」は疑問・不定・関係代名詞としての機能をもつ。「𐤩𐤦𐤄𐤋」は形容詞や名詞的に「悪い・悪いこと≒𐤦𐤄𐤋」などの意味で、単数・女性・絶対形。「𐤐𐤀𐤓𐤁」は「𐤐𐤀𐤓+𐤁」の構成。「𐤐𐤀𐤓」は「大地」などを意味する名詞で単数・絶対形。「−𐤁」は「in」。「𐤥𐤦𐤩𐤔+𐤁＝in+𐤉＝and」の「𐤥𐤦𐤩𐤔」は「天」を意味する名詞で双数・絶対形。「𐤋𐤩𐤏」は「苦しみ」などを意味する名詞で、単数・絶対形。「𐤦𐤩𐤦」は「𐤦𐤩𐤥≒注ぐ」などの未完了・3人称・単数・男性形で、ここでは願望・命令文。「𐤋𐤏」は前置詞で「on・above」。「𐤀𐤃𐤀𐤓＝アルパト」は盟約の相手国。「𐤦𐤥𐤁𐤓」は「石≒𐤥𐤁𐤓」の複数・合成形。後の「雹」にかかる。

𐤋𐤦𐤓𐤌 𐤥𐤥𐤔 𐤏𐤁𐤔𐤉 𐤩𐤁𐤀𐤓 𐤋𐤦𐤓𐤦 𐤥𐤥𐤔 𐤏𐤁𐤔𐤉 𐤀𐤀- 27

let devour years 7 and locust let devour years 7 and hail

[𐤥𐤦 𐤥𐤥𐤔] 𐤏𐤁𐤔𐤉 𐤩𐤏𐤋𐤉𐤌

let go up years 7 and worm

「𐤀𐤀𐤁」は「雹」で単数・絶対形。「𐤏𐤁𐤔𐤉」は「𐤏𐤁𐤔≒7＋𐤉＝and」の構成。

「𐤉𐤉W」は「𐤉𐤉W≒年」の複数・絶対形。「𐤀𐤂𐤊𐤆」は「𐤀𐤂𐤊≒食べる・喰う」の未完了・3人称・単数で男性形。未完了形は命令・願望表現でもある。後にその女性形が出てくる。「𐤉𐤃𐤉𐤊」は「イナゴ」で単数・絶対形。ヘブライ語も同じ。「𐤀𐤂𐤊𐤌」は前出。「𐤀𐤂𐤊≒食べる・喰う」の未完了・3人称・単数で女性形。語頭の文字「－𐤆」は男性形を、「－𐤌」は女性形を示す。「𐤉𐤏𐤀𐤍𐤌」は名詞「虫」の単数・絶対形。

𐤉𐤓𐤄 𐤏𐤋𐤆 𐤀𐤊𐤍 𐤉𐤏𐤉𐤊 𐤆𐤋𐤊 𐤀𐤏 𐤆𐤍𐤌 𐤏－ 28

grass let sprout not and its land surface of on blight

[𐤉𐤄𐤄 𐤌] 𐤆𐤀𐤌 𐤏𐤉𐤆 𐤉𐤄𐤄 𐤌𐤆𐤀𐤍

seen let not be and verdure seen let not be and

行頭の「𐤏－」は、文脈からみて「𐤏𐤄𐤆」と「𐤏𐤋𐤆」の復元案がある。各2字分は27行目の末尾に位置する。「𐤏𐤄𐤆」は「𐤏𐤀𐤄≒行く」の未完了・3人称・単数・男性形。「𐤏𐤋𐤆」も「𐤏𐤋𐤉≒出る」の未完了・3人称・単数・男性形。概ね同義語。後者はすぐ後にも出てくる。

「𐤆𐤍𐤌」には「穀類を食い尽くす両翼の昆虫」とか「荒野」他の意味がある（J. Hoftizer and K. Jongeling 1995)。伴（1967）は、アラビア語から判断し「荒廃」と和訳。「𐤀𐤏」は前置詞で「on」。「𐤆𐤋𐤊」は、アラム語で未確認だが、シリア語の「𐤊𐤋𐤊≒表面」(ed. J. P. Smith 1979 : p.25）から、その合成形と理解。「𐤉𐤏𐤉𐤊」は「𐤉＝その＋𐤏𐤉𐤊＝大地」の構成。

「𐤀𐤊𐤍」は「𐤀𐤊＝not＋𐤍＝and」の構成。「𐤀𐤊」は否定・禁止を意味する副詞。「𐤏𐤋𐤆」は本行で前出。「𐤉𐤓𐤄」は「草」の単数・絶対形。「𐤏𐤉𐤆」は「青草・野菜」の単数・絶対形。「𐤌𐤆𐤀𐤍」は「𐤌𐤆＋𐤀＝not＋𐤍＝and」の構成。「𐤀」は否定の副詞。「𐤌𐤆」は不変化詞「𐤌𐤆𐤊≒存在する」の未完了形。「𐤉𐤄𐤄」は動詞「𐤉𐤄𐤄≒見る」の受動態。以下は前出。

𐤉𐤅𐤏𐤃𐤍 𐤀𐤋𐤉𐤊 [𐤃] 𐤉𐤋𐤂 𐤀𐤏 𐤏𐤅W𐤌𐤆 𐤀𐤊𐤍 𐤉𐤍𐤄𐤊 29

its people among and Arpad in lyre sound of let be heard not and its pasture

[𐤏𐤄𐤍 𐤋𐤍𐤅] 𐤉𐤍 𐤏𐤉𐤅 𐤀𐤅𐤉

and murmur and illness storm

「𐡌𐡉𐡁𐡊」は「𐡌＝its＋𐡉𐡁𐡊≒牧草」の構成。「𐡌－」は３人称・単数・女性形の所有代名詞。「𐡏𐡌𐡅𐡄𐡆」は動詞「𐡏𐡌𐡅≒聞く」の再帰・受動態「聞こえる」で、未完了・３人称・単数・男性形。「𐡀𐡊＝not」が先行するので反対の意味。「𐡀𐡐」は名詞「音・声」の単数・合成形。「𐡃𐡅𐡂」は「竪琴」のこと。「𐡃𐡅𐡃𐡊」は盟約相手の「アルパド」、「－𐡃」は「in・among」。「𐡌𐡌𐡏𐡃𐡉≒そしてその人民の中に」は「𐡌＝its＋𐡌𐡏＝人民＋𐡃＝in＋𐡉＝and」の構成。「𐡌𐡏」は名詞で「人民」。

「𐡀𐡌𐡌」はアラム語では未確認。ヘブライ語では「雨・嵐・嵐の音」などを意味する。A. Dupont-Sommer 1958は「fracas≒破滅」と仏訳、伴と「とどろき」と和訳。「𐡐𐡃𐡌」は「病気」の単数・絶対形。「𐡅𐡉𐡌𐡌」もアラム語では未確認だが、ヘブライ語では「群衆・雑音」のこと。伴は「騒音」と和訳。「𐡌𐡐𐡏𐡉」＝「𐡌𐡐𐡏𐡉」で「叫び」。

𐡀𐡂𐡊 𐡌𐡌 𐡀𐡂 𐡅𐡌 𐡅𐡌𐡀𐡊 𐡅𐡁𐡀𐡅𐡆𐡉 𐡌𐡀𐡀𐡆𐡉 𐡌𐡐－ 30
devour of all catarpillar gods lets send and lamentation and crying

[𐡅 𐡀𐡂𐡊𐡆] 𐡌𐡌𐡏𐡃𐡉 𐡃𐡅𐡃𐡊𐡃
lets devour its people in and Arpad in

「𐡌𐡀𐡀𐡆」は名詞で「悲嘆」の単数・絶対形。「𐡅𐡁𐡀𐡅𐡆＋𐡉」の構成。「𐡅𐡁𐡀𐡅𐡆」は動詞「𐡁𐡀𐡅≒送る」の未完了・３人称・複数・男性形。懇願・命令。「𐡅𐡌𐡀𐡊」は「𐡌𐡀𐡊＝神」の複数・絶対形。「𐡅𐡌」は、名詞の「イモムシ・毛虫」で単数・絶対形。「𐡌𐡌」は疑問・不定・関係代名詞。「𐡀𐡂𐡊≒喰う」はここでは部分詞。単数・男性・絶対形。「𐡃𐡅𐡃𐡊＝アルパド＋𐡃＝in」。「𐡌𐡌𐡏𐡃𐡉＝そしてその人民の中へ」は「𐡌＝its＋𐡌𐡏＝人民＋𐡃＝in＋𐡉＝and」の構成。「𐡀𐡂𐡊𐡆」は前出の「𐡀𐡂𐡊≒喰う」の未完了・３人称・単数・男性形。
願望・命令調。

𐡌𐡃𐡌𐡅 𐡌𐡅𐡉 𐡌𐡌𐡃𐡄 𐡌𐡅𐡉 𐡃𐡄𐡐𐡏 𐡌𐡅𐡉 𐡌𐡉𐡁 𐡌－ 31
panther mouth of and bear mouth of and scorpion mouth of and serpent mouth of

[𐡆𐡉𐡁𐡄𐡆 𐡀] 𐡊𐡉 𐡀𐡌𐡐𐡉 𐡊𐡊𐡉
lets be seen not and louse and moth and

「𐡌𐡅」は「口」の単数・合成形。以下、様々な口が羅列される。「𐡌𐡉𐡁」は「大蛇」

の単数・絶対形。「𐤎𐤋𐤦𐤏」は「さそり」の単数・絶対形。「𐤋𐤋𐤎𐤁」は「雌熊」と訳されるのが通例だが、「𐤋𐤋－」の文法的な解釈は確定せず。ヘブライ語の「𐤎𐤁≒熊」、アラム語・シリア語の「𐤉𐤎𐤉𐤁≒熊」（男性・強意形）を参照。「𐤋𐤁𐤕𐤓」は「雌豹」で女性・単数・絶対形。「𐤇𐤇」は「蛾」の単数・絶対形。「𐤊𐤕𐤦」は「シラミ」で単数・絶対形である。行末は欠損するが、否定語の「𐤊𐤉」と「𐤆𐤄𐤅𐤌𐤆」が想定できる。後者は、「𐤆𐤄𐤅≒見る」の未完了・受動態。次の行にかかる。

𐤆𐤉𐤋𐤌𐤉 𐤋𐤉𐤅𐤉 𐤓𐤕𐤆𐤊 𐤀𐤅𐤌 [𐤆] 𐤓𐤌𐤎𐤦𐤦 𐤋𐤊𐤏 32

let to be and grass desolation into let it perish cut off leaf

[𐤉・・・𐤉・・・𐤦𐤎𐤁] 𐤊 𐤊𐤌 𐤁𐤓𐤋𐤉

and and home for tell(mound) Arpad

初めの2語は未確定。「𐤋𐤊𐤏」を「葉」、「𐤓𐤌𐤎𐤦𐤦」を「切る」（J. C.L. Gibson 1975）とみる見解や、「𐤓𐤌𐤎𐤦𐤦」を「𐤓𐤌𐤎＝蝮＋𐤦𐤦＝喉？」、つまり「蝮の喉？」（伴 1967）とみる見解がある。3語目は、アラム語では未確認だが、ヘブライ語（F. Brown, S. R. Driver and C. A. Briggs eds. 1951）から判断すると、「𐤀𐤅𐤌𐤆𐤆」は動詞の「虐殺する・荒らす・叩く≒𐤀𐤅𐤌」の再帰・未完了形（A. Dupont-Sommer 1958）。命令や願望の表現と理解できる。「𐤓𐤕𐤆𐤊」は「𐤓𐤕𐤆≒砂漠・荒廃＋𐤊＝to」の構成。「𐤋𐤉𐤅𐤉𐤊＝その草木」は「𐤋＋𐤉𐤅𐤉𐤊」の構成。「𐤆𐤉𐤋𐤌」は「𐤆𐤉𐤋≒be」動詞の未然・3人称・単数・女性形。命令・願望の表現である。「𐤁𐤓𐤁𐤉𐤊＝アルパド」は前出。「𐤊𐤌」は遺跡が積み重なって丘となった、いわゆる「テル」。単数・絶対形。「－𐤊≒to」以下は不明。想定される「𐤦𐤎𐤁」は、アラム語では未確認。ヘブライ語では「(place of)」lying down, resting-, or dwelling-place」という男性名詞（F. Brown, S. R. Driver and C. A. Briggs eds. 1951）で、以下に登場する動物類にかかると「巣・巣穴」ということになる。

𐤋𐤦𐤏𐤉 ・・・𐤉 𐤋𐤁𐤉𐤉 𐤓𐤁𐤅𐤉 𐤎𐤓𐤁𐤕𐤉 𐤊𐤏𐤅𐤉 𐤆𐤎𐤉 33

magpie and and owl and wild cat and hare and fox and gazell

[𐤉 𐤀𐤄 𐤕𐤌𐤆] 𐤁𐤦 𐤁𐤕𐤕𐤌 𐤊𐤕𐤉

nor that the city be spoken of let not and

この行の前半には動物類が登場する。先ず、「𐤆𐤎𐤉」は「ガーゼル」。「𐤊𐤏𐤅」は「狐」。

「𐤉𐤓𐤀𐤊」は「野うさぎ」、「𐤓𐤀𐤅」は「野生の猫」。「𐤁𐤀𐤄」は「ふくろう」。そして、「𐤁𐤐𐤏」は「かささぎ」。いずれも単数・絶対形である。

「𐤋𐤊」は、頻繁に登場している否定語で、否定や禁止を意味する副詞である。後ろの動詞にかかる。「𐤀𐤌𐤊𐤌」は「𐤀𐤌𐤊≒言う・述べる」の未完了形・受動態。3人称・単数・女性形。併せて、「述べられることはない」といったような意味となる。想定される「𐤊𐤌𐤆𐤀𐤐」は女性名詞「𐤁𐤆𐤀𐤐≒村・町」の強意形。「𐤃𐤄」は指示代名詞「この・あの」で、強意形の名詞の後に付く。併せて「この町」という意味。

𐤌𐤊𐤄𐤌𐤄 𐤓𐤀𐤅𐤄 𐤁𐤋𐤉𐤌𐤄 𐤁𐤄𐤌𐤄 𐤁𐤉𐤀𐤌𐤄 𐤊𐤀𐤀𐤌 34

Tu'im nor Sharun nor MBLH nor MZH nor MRBH nor MDR'

[𐤊𐤄・・・・] 𐤄 𐤓𐤓𐤆𐤉𐤄 𐤋𐤊𐤌𐤆𐤉𐤄

-A nor nor BYNN nor Bethel nor

本行から次行の頭にかけて、アルパドと同盟しているらしい数々の都市名が羅列される。ここでは各都市の所在地に関して言及しないが、必要あれば「LA LISTE DES VILLES DU ROYAUME D'ARPAD」(A. Lemaire et J.-M. Durand 1984) を参照されたし。

𐤅𐤊𐤉 𐤉𐤄 𐤊𐤌𐤄𐤏𐤅 𐤀𐤐𐤌 𐤆𐤄 𐤃𐤆𐤊 𐤌𐤀𐤊𐤄 𐤄𐤄𐤇𐤄 𐤁𐤓𐤀 35

fire by this wax is burned that just as 'DM nor Hazaz nor (A)rneh

[𐤀 𐤁𐤌𐤓𐤉] 𐤄 𐤀𐤓𐤀𐤊 𐤀𐤐𐤌 𐤓𐤃

- his doughter and Arpad is burned thus

引き続き3ヶ所の町が羅列される。

「𐤃𐤆𐤊」は接続詞的に「ように」の意味に機能。「𐤆𐤄」は関係の小辞。「𐤀𐤐𐤌」は「𐤀𐤐𐤆≒燃える・焼く」の未完了・3人称・単数・女性形。「𐤊𐤌𐤄𐤏𐤅」は「𐤄𐤏𐤅𐤁＝蜜蝋・ワックス」の単数・強意形。「𐤊𐤄」は指示代名詞「𐤁𐤓𐤄＝この」の女性形。前にかかる。「𐤅𐤊𐤉」は「𐤅𐤊≒火＋𐤉＝よって」の構成。「𐤓𐤃」は副詞で「このように・そのように」の意味。「𐤀𐤓𐤀𐤊＝アルパド」は前出。以下は欠損。

想定される「𐤁＋𐤌𐤓𐤉」は「彼の娘」。文脈から、アルパドとの同盟諸国を暗示する。

𐡄𐡕𐡊𐡌 𐡁𐡊𐡉 𐡕𐡆𐡁𐡓𐡅𐡉 𐡓𐡁𐡕 𐡄𐡄𐡓 𐡕𐡓𐡔 𐡀𐡄𐡔𐡆𐡉 𐡌𐡔 36

be spoken of let not and weeds and salt Hadad there in let sow and very much

[𐡊𐡔 𐡊𐡅𐡔𐡕] 𐡉 𐡓𐡕𐡔 𐡊𐡔𐡕𐡀

this life and this thief

「𐡌𐡔𐡄」は、アラム語では未確認だが、シリア語では副詞で「very much・very greatly」の意味（J. P. Smith ed. 1979)。「𐡀𐡄𐡔𐡆」は動詞「𐡀𐡄𐡔≒撒く」の未完了形。願望。「𐡕𐡓𐡔≒そこへ」は「𐡕𐡓＋𐡔＝in」の構成。「𐡕𐡓」は関係詞で、先に羅列された町々を指す。「𐡄𐡄𐡓＝ハダッド神」は前出。「𐡓𐡁𐡕」は「塩」の単数・絶対形。「𐡕＋𐡆𐡁𐡓𐡅」は「雑草」えるいは「コショウ草」で複数・絶対形。「𐡄𐡕𐡊𐡌」は前出。「𐡊𐡔𐡕𐡀」は名詞で「泥棒」。「𐡓𐡕𐡔＝この」は指示代名詞で男性形。前の単語にかかる。以降は欠損。想定される「𐡊𐡅𐡔𐡕＝𐡊𐡅𐡕𐡕」は名詞「命」の強意形。「𐡊𐡔＝この」は指示代名詞で女性形。

𐡊𐡔 [𐡊] 𐡌𐡉𐡀𐡅 𐡄𐡀𐡌 𐡆𐡔 𐡓𐡂𐡆𐡊 𐡊𐡓 𐡓𐡅𐡔𐡕𐡉 𐡁𐡊𐡀𐡌𐡕 37

this wax is burned that just as just as his life and Mati'el

[𐡊𐡔 𐡁𐡊𐡀𐡌] 𐡕 𐡄𐡀𐡆 𐡕𐡂 𐡅𐡊𐡔

-fire by Mati'el is burned thus fire by

35行目と似た文言。「𐡓＋𐡅𐡔𐡕」は名詞で「彼の生命」。36行目に強意形。「𐡊𐡓」は接続詞で「のように」の意味。同じく「𐡓𐡂𐡆𐡊」も前置詞機能を持った小辞で「のように」の意味。「𐡄𐡀𐡆」は動詞「燃える」の未完了・単数・男性形。女性形は前出で「𐡄𐡀𐡌」。行末は想定。

𐡄𐡔𐡅𐡆 𐡕𐡂 𐡕𐡁𐡊 𐡊𐡆𐡓𐡓𐡉𐡉 𐡊𐡌𐡅𐡀 𐡄𐡔𐡅𐡌 𐡆𐡔 𐡂𐡆𐡊𐡉 𐡅 38

break thus these arrow and bow are broken that just as and

[𐡁𐡊𐡀𐡌𐡕 𐡌𐡅𐡀] 𐡄𐡄𐡓𐡉 𐡌𐡄𐡕𐡊

Mati'el bow Hadad and Inurta

頭には前行の続きの文字。「𐡄𐡔𐡅𐡌」は動詞「𐡄𐡔𐡅≒壊す」の未完了・受動態・3人

称・単数・女性形。「𐎗𐎚𐎼𐎽」は「弓≒𐎚𐎼𐎽」。「𐎗𐎲𐎠𐎶」は「矢≒𐎲𐎠𐎶」の、いずれも強意形。「𐎘𐎸𐎗＝これら」は指示代名詞で複数形。「𐎙𐎚𐎼𐎲」は「𐎙𐎚𐎼≒壊す」の未完了形・3人称・単数・男性形。同じ行に受動態形がみられる。「𐎚𐎙𐎘𐎗」は「イヌルタ神」。シュメールにおける豊穣・戦争神である。「𐎙𐎙𐎖＝ハダッド神」は前出。以下は欠損。想定部分の「𐎚𐎼𐎽≒弓」、「𐎸𐎗𐎿𐎚𐎖＝マティエル」は前出。

𐎘𐎖 𐎗𐎚𐎘𐎿𐎼 𐎙𐎚𐎜 𐎙𐎿𐎲 𐎲𐎊 𐎖𐎲𐎗𐎘 𐎖𐎘𐎚𐎙 𐎚𐎼𐎽 [𐎘] 39

thus wax man is blinded that just as and his noble bow and

[𐎊 𐎖𐎲𐎗𐎘 𐎸] 𐎗𐎿𐎚𐎖 𐎙𐎿𐎲

-that just as and Mati'el is blinded

「𐎖𐎘𐎚𐎙」は「𐎖＝彼の＋𐎘𐎚𐎙」の構成。「𐎘𐎚𐎙」は「偉大な」などを意味する形容詞の複数形だが、ここでは名詞的用法で、「マティエル（彼）の家臣達」を意味する。「𐎙𐎚𐎜」は名詞の「人」で絶対形。「𐎙𐎿𐎲」は受動態としての動詞「𐎙𐎘𐎿≒盲目にされる」の未完了・3人称・単数・男性形。以下は前出。

𐎸𐎗𐎿𐎚𐎖 𐎙𐎊𐎜𐎲 𐎘𐎖 𐎖𐎘𐎊 𐎗𐎸𐎜𐎿 𐎙𐎊𐎜𐎲 [𐎲] 40

Mati'el is cut thus this calf is cut

[𐎿𐎲 𐎲𐎊 𐎖𐎲𐎗] 𐎘 𐎖𐎘𐎚𐎙 𐎘𐎙𐎊𐎜𐎲𐎘

-is stripped that just as and his noble are cut and

「𐎙𐎊𐎜𐎲」は動詞「𐎙𐎊𐎜≒切る」の未完了の受動態形。3人称・単数・男性形。「𐎗𐎸𐎜𐎿＝子牛」は強意形。指示代名詞の「𐎖𐎘𐎊＝この」は前出。「𐎘𐎙𐎊𐎜𐎲」は「𐎙𐎊𐎜≒切る」の未完了・受動態。3人称・複数・男性形。「𐎖𐎘𐎚𐎙≒彼の官僚達」は前出。行末から次行頭は欠損・不明。

𐎲𐎘𐎖𐎘 𐎸𐎗𐎿𐎚𐎖 𐎲𐎘𐎖 𐎖𐎙𐎙𐎿𐎲 𐎖𐎘 [𐎖] 𐎖 [𐎊 𐎙𐎙] 41

of wives and Mati'el of wives are stripped thus this –

[𐎊 𐎖𐎲𐎗𐎘 𐎖𐎘𐎚] 𐎙 𐎲𐎘𐎖𐎘 𐎖𐎙𐎿𐎚

just as and his noble of wives and his descedants

この行の頭付近は不明瞭。「𐤉𐤄𐤋𐤁𐤄」は受動態としての動詞「𐤄𐤋𐤁⇒裸にされる」の未完了・3人称・複数・女性形。その単数形「𐤄𐤋𐤁𐤄」が前行末から本行頭にかけて想定される。「𐤄𐤅𐤉」は「𐤌𐤔𐤊⇒妻」の複数・合成形で、「～の妻達」。「𐤌𐤄𐤐𐤁⇒彼の子孫達」は前出。行末は想定。

𐤉𐤃𐤐𐤄 𐤉𐤆 𐤌𐤄𐤓𐤊 𐤓𐤁 𐤊𐤃𐤉𐤄𐤉 [・・・・・・・・・・・・・・] 42

be taken thus his face on is beat and

[𐤉 𐤓𐤊𐤁𐤔𐤉 𐤄𐤅𐤉]

-and Mati'el of wives

本石碑の最後の行。前半は不明。「𐤊𐤃𐤉𐤄」は動詞「𐤊𐤃𐤉⇒打つ」の未完了形・3人称・単数・男性形。文意から受動態と理解。「𐤓𐤁」は前置詞の「の上に」などの意味。「𐤌𐤄𐤓𐤊⇒彼の顔」は「𐤌＋𐤄𐤓𐤊」の構成。「𐤄𐤓𐤊」は「𐤓𐤊⇒顔」の双数・合成形。「𐤉𐤃𐤐𐤄」は動詞「𐤃𐤐𐤓⇒取る」の未完了・3人称・複数・女性形。

（続）